

# 第72期事業報告及び計算書類報告の件

平成29年6月23日

代表取締役社長 西田憲司

# 1. 第72期決算トピックス

## 【売上高は前期比12%の減収】

- ・ 主力製品のLPG容器用弁について：  
値上げ、競争激化、再検査需要の低迷（新容器の増加）の影響により減収。
- ・ 鉄鋼弁について：  
代理店との仕切り方法の変更（「発注ベースの値引き」から「売上に対する奨励金」）、  
値上げにより前期末に駆け込み需要が発生した影響、造船市況の低迷により減収。

## 【営業利益は前期比44%の増益】

- ・ 黄銅材の価格が安定（ただし期末にかけて急騰）したこと、値上げに加え、原価低減  
施策（平準化生産、稼働率の維持、部品の内製化）が奏功したことにより、増益。

## 【財務内容は健全性を維持】

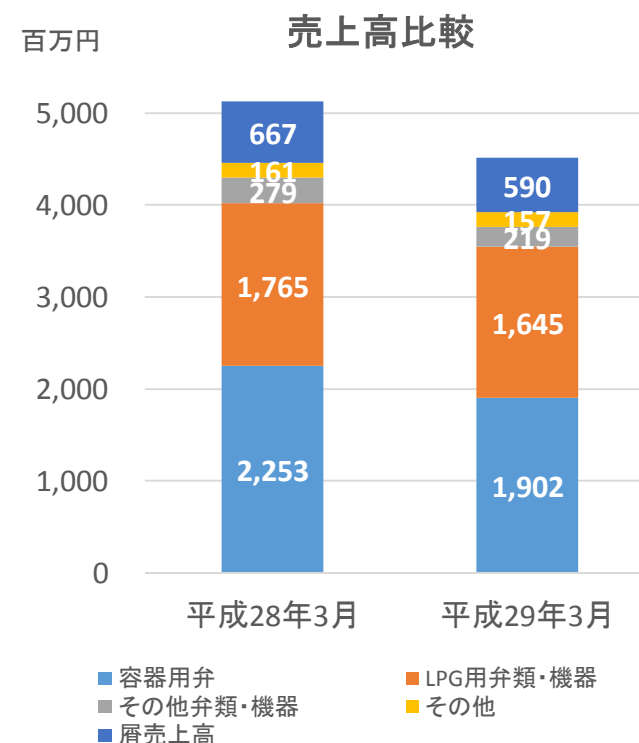
- ・ 流動比率（流動資産/流動負債） : 168%
- ・ 固定比率（固定資産/純資産） : 1倍
- ・ 自己資本比率（純資産/総資産） : 55%

## 【前期に復配を果し、当期も配当継続】

- ・ 本総会に1株1円の配当議案（「剰余金の処分の件」）を提案させていただきます。

## 2. 売上高

単位：百万円	H28年3月	H29年3月	増減
容器用弁	2,253	1,902	▲351
LPG用弁類・機器	1,765	1,645	▲120
その他弁類・機器	279	219	▲60
その他	161	157	▲4
屑売上高	667	590	▲77
合計	5,127	4,514	▲613



- ・ 容器用弁は値上げによる転注で大幅減となりましたが、他社追随値上げで回復基調。
- ・ LPG用弁類・機器は代理店との仕切り変更(「発注ベースの値引き」から「売上に対する奨励金」に変更、在庫は当社が抱えることに変更した)をH28年3月期末に行ったため、代理店在庫の消費が期中後半まで掛かり、売上が抑えられました。在庫が一巡したため回復基調。
- ・ H30年3月期の売上高は、上記の復調に加え、LPGバルク貯槽の20年検査が本格化するため堅調に推移する見込みです。

### 3. 収益状況

- ・ 値上げ＋原価低減施策により、大幅な減収下で増益を確保しました。

単位：百万円	H28年3月	H29年3月	増減
売上高	5,127	4,514	▲613
売上原価	4,348	3,669	▲679
売上総利益	779	845	+66
販管費	698	728	+30
営業利益	81	117	+36
営業外損益	▲14	▲6	+8
経常利益	67	111	+44
特別損益	0	112	+112
税引前利益	67	223	+156
法人税等	▲162	24	+186
当期純利益	229	199	▲30

【売上総利益率】	
H28年3月	15.2%
H29年3月	18.7%

【営業利益率】	
H28年3月	1.6%
H29年3月	2.6%

【経常利益率】	
H28年3月	1.3%
H29年3月	2.5%

【特別利益】	
貸倒引当金戻入	72
役員退職慰労引当金戻入	17
補助金収入	48
合計	137

【特別損失】	
固定資産除却損	1
事業撤退損	24
合計	25

税効果会計による法人税等調整額▲171を計上

## 4. 財務状況

- 財務の健全性に留意しながら、積極的な在庫投資、設備投資を行っています。

単位：百万円	H28年3月	H29年3月	増減
流動資産	2,950	3,129	+179
うち現預金	579	547	▲32
うち商品・製品	767	1,116	+349
固定資産	3,521	3,974	+453
うち建設仮勘定	4	264	+260
<b>資産合計</b>	<b>6,471</b>	<b>7,103</b>	<b>+632</b>
流動負債	1,372	1,861	+489
うち借入金	404	854	+450
固定負債	1,351	1,314	▲37
うち借入金	166	168	+2
純資産	3,748	3,928	+180
うち利益剰余金	229	381	+152
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,471</b>	<b>7,103</b>	<b>+632</b>

**【LPG容器用弁】**  
 +220  
 一貫自動ライン更新のための  
 安全在庫作り込み

**【鉄鋼弁】**  
 +110  
 代理店との仕切り変更による  
 保有在庫のシフト

**【LPG容器用弁設備】**  
 総額10億円 H30年3月完成予定

**【LPG容器用弁設備投資借入】**  
 +200  
 (完成時の長期借換えを銀行と契  
 約済み)

**【その他運転資金】**  
 +250

# 5. 事業展開 (招集ご通知P.7「対処すべき課題」補足)

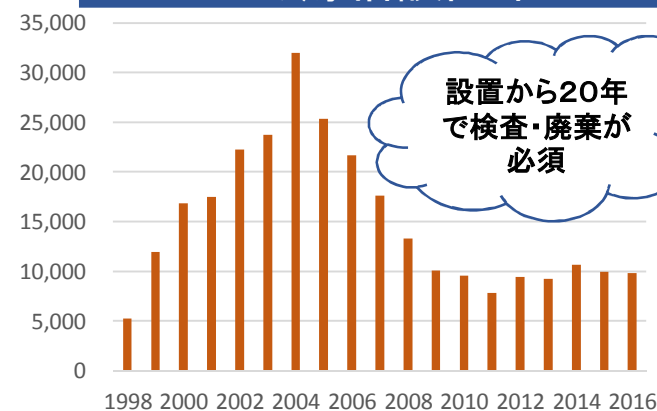
	コア事業	拡大事業	新規事業	提携事業
分野	LPG	LNG、低温、水素	食品加工、汎用	Cavagna社
第72期取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容器弁値上げ</li> <li>・自動ライン更新着手 (建屋、機械、資金調達)</li> <li>・バルク貯槽20年検査対策 (作り込み、回収支援)</li> <li>・FRP容器弁新開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LNG弁採用拡大</li> <li>・液体窒素弁採用拡大</li> <li>・液体水素弁の性能試験 用途転用(超低温設備)</li> <li>・圧縮水素弁の開発構想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工用サニタリー弁の 開発着手</li> <li>・節水器具の製品化 (上場営業会社と連携)</li> <li>・散水ノズルの製品化</li> <li>・汎用弁のOEM調達 ネット販売開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提携分野の調査・検討に 関する覚書締結</li> <li>・当社プロジェクトチームのイタリア 本社訪問</li> </ul> <p>【検討中プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当社海外販売製品のOEM C社日本販売製品のOEM</li> <li>・新製品の共同開発(水素)</li> <li>・相互の取引先紹介</li> </ul>
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動ライン更新完成 (生産性・収益向上)</li> <li>・バルク貯槽付属機器の 増産、販売強化</li> <li>・鉄鋼弁の納期短縮 (鋳物、工程改善)</li> <li>・海外を含めた設備用弁 の製造・販売強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温弁の製品・用途開発 強化</li> <li>・液体水素弁の採用獲得</li> <li>・圧縮水素弁の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工用サニタリー弁販売</li> <li>・節水器具、散水ノズルの 販売定着化</li> <li>・汎用弁の販売定着化</li> <li>・配管用バルブ、ノズル、カップ リング分野の製品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討中プロジェクトの具体化</li> </ul>

# 6. コア事業

- ・ LPG流通の川上から川下までのすべての施設、機器に当社バルブが使用されています。
- ・ 2017年よりバルク貯槽の20年検査に伴う需要が本格化していきます。(1998年に設置開始)



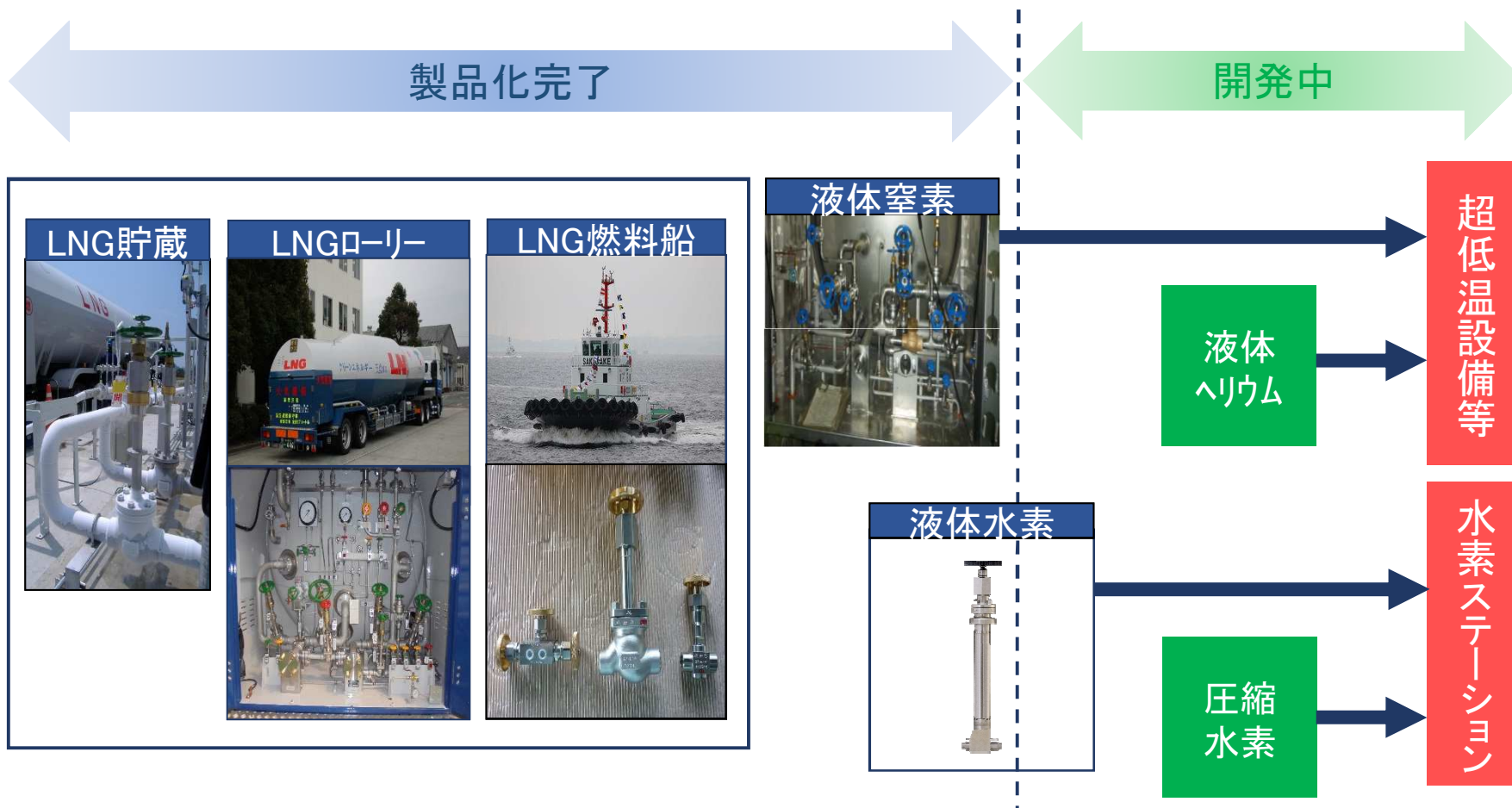
バルク貯槽設置年





# 7. 拡大事業

- LNG用バルブの開発により低温分野の技術を獲得しましたので、液体窒素、液体水素に分野を拡大中です。さらに、圧縮水素、液体ヘリウム分野を開発中です。





## 8. 新規事業

- 「食品加工工場」をモデルとして、その配管で使用されるバルブ、ノズル、カップリングを開発することで、従来の事業とは異なる流体、温度帯での新規事業を開拓しようと試みております。



## 9. 提携事業

- ・2016年6月にパルテカ社（イタリア、カバーニャグループの持株会社）と「提携分野の調査・検討に関する覚書」を締結し、両社で具体的案件に関する見積を含め、協議を重ねています。11月には当社のプロジェクトメンバー7名が、カバーニャ本社を訪問し交流を深めてきました。

事業分野比較	当社		カバーニャ	
	日本	海外	日本	海外
展開地域（△は限定的）				
LPG容器用	○	△	X	○
LPG設備用	○	△	X	○
プラント用	○	△	X	○
医療・産業ガス容器用	X	X	X	○
調整器	X	X	X	○
低温設備用	○	X	X	○
容器充填設備	X	X	X	○
LPG使用機器	X	X	X	○

### カバーニャグループ

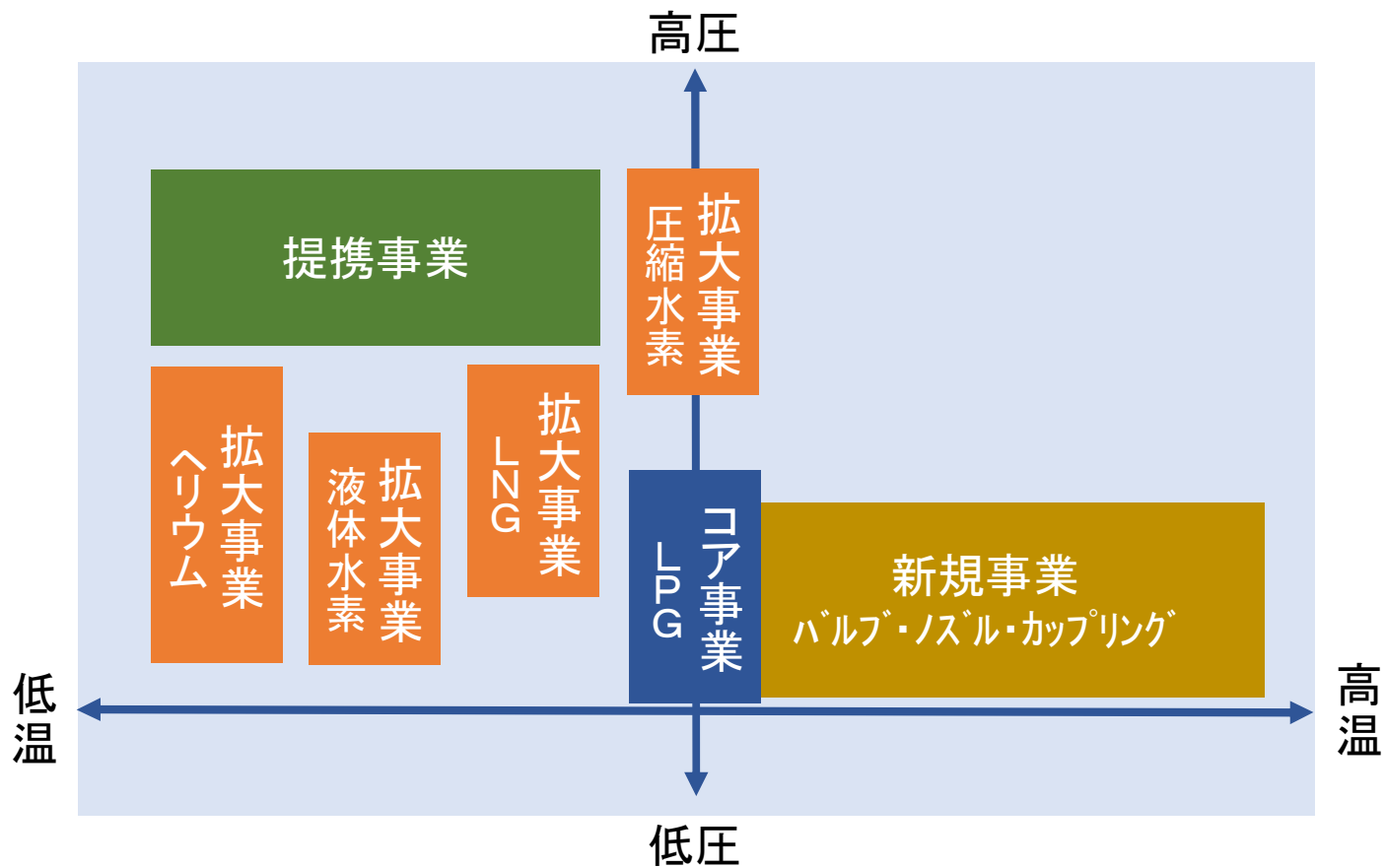
- ・本社 イタリア（プレシア）
- ・従業員 900名（15カ国）
- ・売上高 約300億円
- ・工場 イタリア9、海外9
- ・製品供給 140カ国

### カバーニャ本社訪問



# 10. 当面の事業戦略イメージ

- ・ 拡大事業として、低温・高圧の事業分野を開拓中です。提携事業は拡大事業を後押しするための事業です。
- ・ 新規事業は、汎用性の高いバルブ・ノズル・カップリングの事業分野を開拓中です。



# 11. 甲府工場現況

- ・ 甲府工場への設備投資を積極化させております。
  - 太陽光発電設備：H29年1月完成
  - LPG新工場建屋：H29年7月完成予定（H30年3月稼働開始予定）



# ご留意事項

この資料に掲載されている、株式会社宮入バルブ製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.miyairi-valve.co.jp/>